

## 5 蓮台寺温泉にみる歴史的風致

### (1) はじめに

行基菩薩ぎょうきぼさつにより開かれたと伝承されている蓮台寺温泉れんたいじは、温泉に関する決まり事を確認したとされる古文書『元文五年の温泉に関する定め』により、元文5年(1740)には湯宿を営む者がいたことがわかっている。明治後期には、温泉街が形成され、大正、昭和と時代の流れとともに有名温泉地に発展してきた。現在も趣ある温泉旅館があり、市内でも数少ない源泉を持つ地区である。

『増訂豆州志稿ずしゅうしこう(明治21年(1888))』には、蓮台寺という地名は、蓮台寺から起こった地名と記載されているが、現在寺はなく、蓮台寺にあったと言われている大日如来坐像だい にちによらいざぞうと四天王像が天神神社の敷地内のお堂にある。



大日如来坐像

県道蓮台寺本郷線を中心として地区が形成されているが、県道が完成する前の主要道路であった湯の華小径沿道ゆのはなこみちは、古い家並みなどにより懐かしい景観を残している。

蓮台寺地区では、湯を授けた神様を、上の湯権現、下の湯権現として社に祭り、毎年1月11日には、湯権現例祭ゆごんげんを開催して、蓮台寺の誇りである温泉を授けてくれたお湯の神様に毎年感謝を捧げている。また、10月の第2土曜日、日曜日には、豊年満作、蓮台寺温泉の発展を祈願して、天神神社秋季例祭が行われる。



湯権現例祭



天神神社秋季例祭

### (2) 蓮台寺の温泉に関する歴史

蓮台寺で温泉の開掘を行ったきっかけには、以下のような伝承がある。

旅の僧、行基菩薩(天智7年(668)～天平21年(749))が、諸国行脚あんぎゃの道すがら、天城を越え、険しい山道を歩いて、しばしまどろむうちに夢を見

た。天狗様が現れて「これより南に下れば、葦の茂みに温泉湧くところあり。これを開いて庶民を救うべし…」という。これに従ったところ、地区内数か所に温泉が湧出したという。

『賀茂郡史（平成7年（1995））（「南豆風土誌（大正3年（1914））」の複製）』には、行基が蓮台寺温泉を発見したことが記載されている。その後、さらに寛永元年（1624）に上の湯（下藤原温泉）が開削、寛永3年（1626）に下の湯（薬師温泉）が開削されたことが記載されている。

嘉永7年（1854）3月18日から27日には、ペリー艦隊を追って下田に急行した吉田松陰が、皮膚病の治療のため、蓮台寺温泉に行き、医師の村山行馬郎と知り合ったことで、10日間で4回蓮台寺を訪れ、村山邸に3泊したという記録があり、温泉は病に効果があったことがうかがえる。

### （3）湯権現例祭と天神神社秋季例祭を構成する建造物

#### ①上の湯権現

上の湯権現は、上の共同浴場の隣にあり、お湯の神様が祭られている。社の隣にある石灯籠は1体のみで、この灯籠の側面に「安政6年（1859）建立」と刻まれている。社は、一間社流造である。



上の湯権現

#### ②天神神社

天神神社は、『20世紀の蓮台寺（平成14年（2002））』によると、地名にもある温泉山蓮台寺が廃寺となった後、延宝6年（1678）に再建されたと言われている。現在の社殿は、棟札によると大正14年（1925）に神殿を建設した記録があり、大正14年（1925）頃の写真に今と同じ構造の神殿が写っている。神殿は、妻入り、入母屋造、瓦葺きである。神殿の左斜め後方には、蓮台寺に安置されていたといわれる大日如来坐像を収めた収蔵庫が建つ。



大正頃の天神神社



天神神社

#### (4) 湯権現例祭と天神神社秋季例祭の背景となる建造物等

##### ①吉田松陰<sup>ぐう きしよ</sup>寓寄<sup>かく</sup>処<sup>ところ</sup>（旧村山邸）

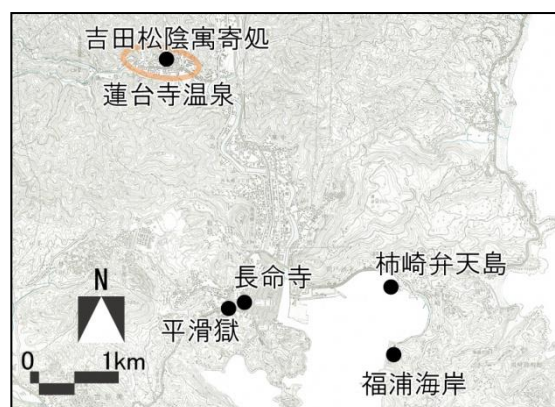
嘉永6年（1853）6月、神奈川の浦賀へのペリー艦隊の来港を機に、吉田松陰<sup>ぐう きしよ</sup>と金子重輔<sup>かね ちげのすけ</sup>は、海外の事情を知ることこそ最も急務であるとして、嘉永7年（1854）3月18日、ペリー艦隊を追って下田に急行し、岡方村<sup>おかがた</sup>の岡村屋に投宿した。当時皮膚病を患っていた松陰は、入湯治療のため蓮台寺の共同湯へ行き、そこで夜を明かそうとしていた時、偶然村医者<sup>むら いしや</sup>の村山行馬郎<sup>むらやま ぎょうばらう</sup>と知り合い、その好意により数日間村山邸に宿泊した。

松陰らは毎夜海岸へ出ては、黒船への便乗の機をうかがい、下田と蓮台寺に交互に宿泊した。その後松陰らは、3月27日<sup>かきさき</sup>柿崎の弁天島付近から小舟を出し、ポーハタン号に漕ぎつけたが、柿崎<sup>かきさき</sup>の福浦海岸<sup>ふくaura</sup>に送り戻された。

この企ての発覚を覚悟した松陰らは自首し、一時長命寺（現在の中央公民館の所）に拘禁され、更に平滑獄<sup>ひらなめ</sup>（現在の下田メディカルセンター前の山際に）に投ぜられた。そして、4月11日<sup>とうまるかご</sup>唐丸籠で天城山を越え、江戸伝馬町の獄へ送られた。

『吉田松陰寓寄<sup>ぐう きしよ</sup>処<sup>ところ</sup>修理工事報告書（平成4年（1992））』によると、旧村山邸の詳細な建築年数は不明であるが、建物の土台がなく礎石建ち、一間引違内雨戸、土間・広間境に建具を入れず開放とする建築構造や、吉田松陰が訪れた時の文献から、嘉永7年（1854）以前に建てられたとしている。修理については、昭和16年（1941）、昭和51年（1976）には浸水被害修復、平成4年（1992）、平成26年（2014）に茅葺<sup>かやぶき</sup>屋根の葺き替えを行っている。

建築物は、一部2階建て、東入母屋造、西寄棟造、茅葺（一部棧瓦葺）



吉田松陰の立寄り場所



吉田松陰寓寄<sup>ぐう きしよ</sup>処<sup>ところ</sup>（旧村山邸）



吉田松陰と村山氏が出会った共同湯

<sup>よせむねづくり</sup> 西寄棟造、茅葺（一部<sup>さんがわらぶき</sup>棧瓦葺）



である。

## ②温泉旅館

蓮台寺温泉には和風旅館が点在している。石橋旅館は、明治終わりから大正の初めにかけて建てられたもので、<sup>からはふ</sup>唐破風御殿造の玄関、特注の屋根瓦には石橋の名が刻まれた重厚な造りが特徴の旅館である。



昭和初期の石橋旅館



石橋旅館

## ③蓮台寺のまちなみ

湯権現の社のある湯の華小径は、明治・大正時代より主要道路として利用され、趣ある石積みに昔ながらの家が建つ風景が見られる。沿道には、吉田松陰が訪れた村山邸や、蓮台寺のお湯に触れることができる手湯が設置されている。



大正期の湯の華小径



湯の華小径

## (5) 活動

### ①湯権現例祭

湯を授けた湯権現様に感謝するため、二つの社（上・下の湯権現様）を建てて祭ったのが始まりで、毎年1月11日に祭りが行われている。現在は、上の湯権現では天神神社宮司が、下の湯権現では広台寺住職がそれぞれの社前で地域の人と一緒に湯の神様に感謝を捧げる。広報しもだには、昭和39年（1964）には湯権現例祭が行われていた記事があるが、地元住民によると、昭和初期には行われていたといわれている。

はじめに下の湯権現で祭事が行われる。蓮台寺温泉のお座敷小唄等が流れるなか、住民が湯権現に集まる。先人の御努力に感謝し、蓮台寺温泉の発展を祈願して、住職の読経のなか住民が手を合わせる。続いて吉田松陰寓寄処がある湯の華小径を参加者みんなで歩き、上の湯権現へ行き、宮司の御祈<sup>きとう</sup>禱で住民が手を合わせ、お神酒が振る舞われる。



下の湯権現（例祭）



上の湯権現（例祭）



祭典巡行路図

## ②天神神社秋季例祭

蓮台寺では、10月第2土曜日と日曜日に天神神社の秋季例祭を行う。秋季例祭は、自然の恩恵に感謝し、豊年満作並びに、蓮台寺地区・蓮台寺温泉の振興を願い、地区の人々が神輿を担いで地区内を巡行する祭りである。

『20世紀の蓮台寺』には、昭和20年(1945)の祭礼の様子が掲載されている。また、昭和40年(1965)10月13日の伊豆新聞には、秋季例祭の開催記事が掲載されている。



天神神社秋季例祭の子供神輿  
(昭和20年(1945))



神輿は、男性、女性、子供が担ぐ3種類がある。男性や子供が担ぐ神輿は古くからあったが、この祭りの特徴である「蓮台寺女神輿」は、昭和57年(1982)に始まっている。

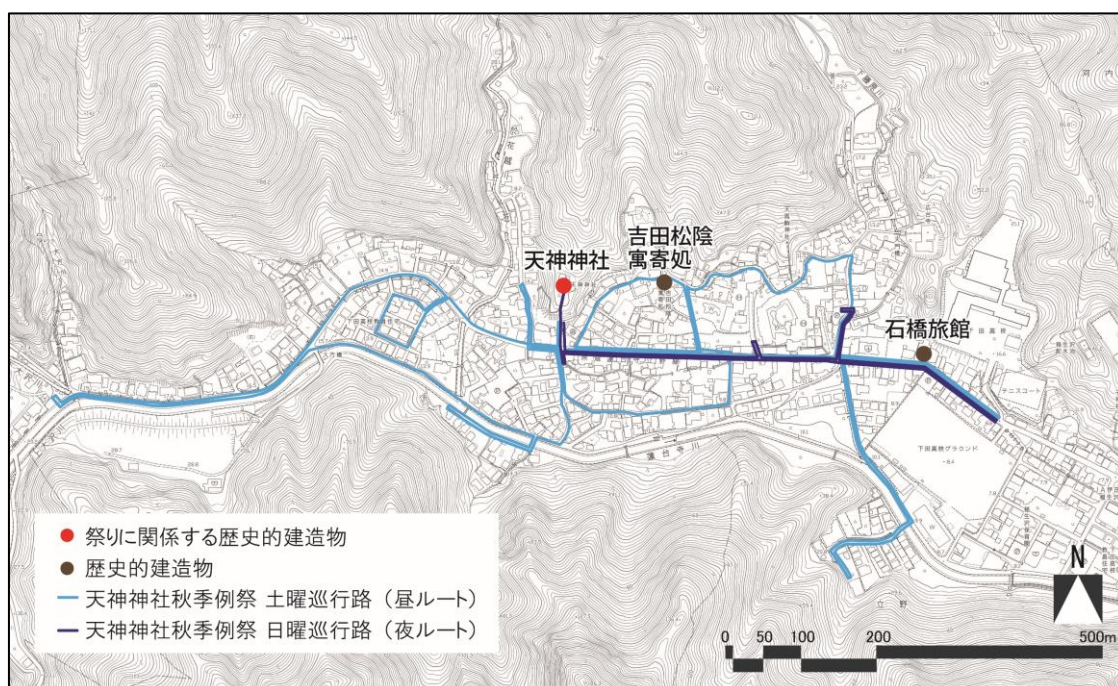
祭りが近くなると神社階段には提灯、地区内の家には紙で作られた色とりどりの花が飾られる。土曜日は昼ルートであり、12時に神輿が宮出をして半日かけて地区内の寓寄処前や温泉旅館前を巡行する。日曜日は、夜ルートで、18時に神輿が神社を出発して地区を回る。当日21時頃になると、神輿の宮入に備えて、天神神社の周辺には多くの住民が集まる。急な天神神社の階段を一気に神輿が駆け上がる様子は、この祭りの一番の見どころである。



巡行



宮入



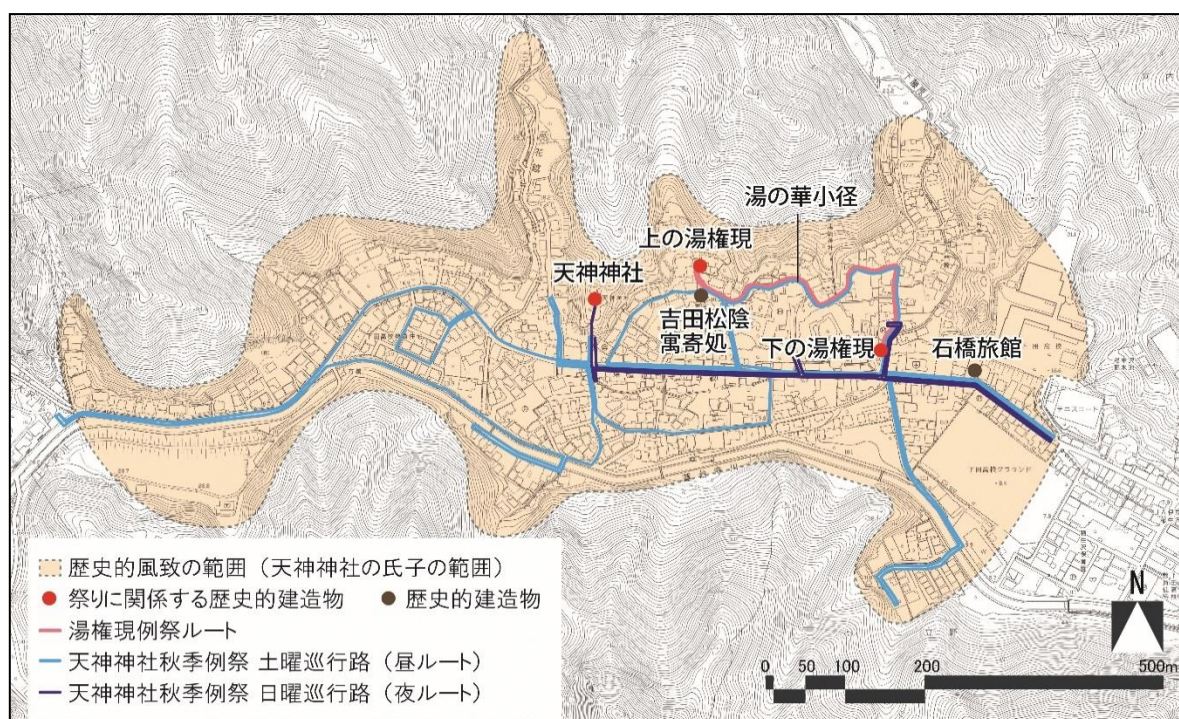
祭典巡行路図



### (6) まとめ

蓮台寺地区は、温泉とともにある地区である。地区の人々は、この温泉に感謝し誇りに思っている。湯権現例祭は、この蓮台寺源泉を授けてくれた湯権現に感謝するお祭りである。地区内の温泉旅館は減少しているものの、地区住民は、天神神社例大祭をはじめ、地区の団結力によりこの蓮台寺温泉を盛り立てる様々な活動を行っている。

また、温泉とともにつくられてきた蓮台寺温泉は、湯の華小径を中心に、吉田松陰が訪れた村山邸、石積み擁壁に建てられた民家など懐かしい景観が残っている、後世に残していきたい歴史的風致である。



蓮台寺温泉にみる歴史的風致の範囲

### ＜コラム6 枝垂れ桃の植栽＞

蓮台寺の所々で枝垂れ桃を見ることができ。この枝垂れ桃は、蓮台寺に住むある男性が、花好きな奥さんのために、今から 35 年前にもらった枝垂れ桃の種を庭先に蒔いたのがきっかけである。

芽が出て、花が咲き、実が成って、秋に実が落ち、現在の状態にまでなった。現在は、蓮台寺花の会が主体となって、地域の人々が枝垂れ桃のお世話をしている。

枝垂れ桃の里は、口コミで広がり、開花時期には地域による枝垂れ桃の里祭りが開催され、天神神社敷地内にある国指定文化財大日如来坐像の公開と併せて賑わいをみせている。



蓮台寺の枝垂れ桃